

## 令和2年12月（第7回）役員会議事要旨

日 時 令和2年12月25日（金）13:00～13:28

場 所 （ウェブ会議システム「Microsoft Teams」を利用）

出席者 6 / 7

榎野学長，高橋理事，佐野理事，那須理事，渡邊理事，青山理事

欠席者 金澤理事

陪席者 青山監事，大原監事

（大原監事は，ウェブ会議システム「Microsoft Teams」を使用して陪席）

### ○ 前回議事要旨の確認

令和2年11月（第6回）の議事要旨（案）について，原案のとおり承認された。

### ○ 議 事

#### 1 審議事項

##### （1）一般選抜（後期日程）及び国際バカロレア選抜に関する今後の方針について

佐野理事から，資料1に基づき，日本学術振興会の大学教育再生加速プログラム（AP）の事後評価の結果及び最近の後期日程の充足率や実質倍率の状況並びに昨今の社会情勢を踏まえ，今後の入学者選抜の在り方として多様な能力を見ていくことが必要であり，入試の考え方を「選抜」から「スカウト」という方向へ変えつつ，「特別選抜」を今以上に重視していく考えへ転換し，①一般選抜（後期日程）を全学的に廃止し，その募集人員を原則として特別選抜に移行し，最終的に全学として特別選抜での募集人員を入学定員の30%程度まで引き上げること，及び，②国際バカロレア選抜の募集人員を入学定員の5%（全学で110名）として設定することの2点を今後の方針とし，後期日程の廃止については2年前予告が必要であることから，2023年度の入試から実施することとしたい旨提案があった。

これに対し，多様な人材を入学させるような入試制度にしていくべきである旨の指摘とともに，資料1のP6の表に関し，IB入試の今後の方針を達成するための具体的方策について質問があり，佐野理事から，IB入試の志願者数は増えてきているが，最終的な入学に至っていない（複数大学合格者が本学に入学しない）のが現状であるため，入試広報の改善やIB生を支える全学的組織の設置に向け検討することを考えている旨回答があった。

また，2023年に後期日程を廃止した後の具体的な方策として，今後の18歳人口の推移をも考慮し，多様な学生をリクルートして入学させるべく，後期日程廃止と同時に後期日程の募集人員を特別選抜入試や前期日程入試の募集人員へ単に振り分けるのではなく，よりよい特別選抜試験制度を検討して導入しつつ第4期末までに当該方針を達成できるようにするべきである旨意見があり，佐野理事から，出された意見

を踏まえ、アドミッションセンターにおいて今後関係部局等とも協議することとして  
いきたい旨回答があり、審議の結果、承認された。

なお、資料1の「1. 一般選抜（後期日程）に関する今後の方針」の【今後の方針】  
に記述している「最終的に」とは、「第4期の最終年度までに」であることを確認した。

## 2 その他

### (1) 次回開催日について

今回は、1月12日（火）13時00分から開催することとなった。

以 上